

イベントのご案内

平成24年1月16日

東京大学宇宙線研究所

「大型低温重力波望遠鏡・一般講演会及び愛称公表式」開催のお知らせ

平素は、東京大学宇宙線研究所の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび東京大学宇宙線研究所では、大型低温重力波望遠鏡・一般講演会及び愛称公表式を東京大学柏キャンパス・柏図書館メディアホールにて開催することとなりました。

大型低温重力波望遠鏡は、文部科学省の「最先端研究基盤事業」の補助対象事業として2010年に建設が開始されました。これを受け、「博士の愛した数式」などの著書で有名な作家の小川洋子氏（命名委員会委員長）の協力により、2010年12月にその愛称を一般から公募して決定することとしました。当初は、愛称の公募期間終了後の2011年3月に、小川委員長をはじめとする有識者から構成された命名委員会（注：委員は、青野由利・毎日新聞論説委員、梶田隆章・宇宙線研究所長、高柳雄一・多摩六都科学館長、横山広美・本学大学院理学系研究科准教授、渡部潤一・国立天文台広報室長）を開くことにより、愛称を決定する予定でした。しかし、東日本大震災の影響により、その決定及び公表が遅れることとなりました。今回、同じく震災の影響で遅れていた地下実験室の建設工事の着工により、1月28日に着工を記念する一般講演会を開くとともに、ついにその愛称の公表に至りました。愛称公表式では、小川洋子命名委員長が愛称を発表いたします。一般講演会では川村静児・東京大学宇宙線研究所・教授と柴田大・京都大学基礎物理学研究所・教授の2名が講演します。

また、これに先立つ2012年1月20日には、建設工事が行われる岐阜県飛騨市神岡町で着工記念式典を執り行います。こちらの情報は式典終了後、宇宙線研究所HP（URL: <http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/>）に掲載いたしますので、こちらも併せてご確認頂ければと思います。

つきましては、本件について記事掲載およびイベント当日の取材等を是非お願いいたしたく、ご案内申し上げます。

記

日 時：平成24年1月28日（土） 13時～16時半（12時半受付開始）

場 所：東京大学柏キャンパス 柏図書館メディアホール（千葉県柏市柏の葉 5-1-5）

使用言語：日本語

プログラム：

①日 時 平成24年1月28日（土）

一般講演会 13時00分～

愛称公表式 15時30分～

定員：144名

参加費：無料（事前の参加登録等も不要です）

※報道関係の方で当日お越し下さる場合は、事前に下記電話にご連絡下さい。

※本シンポジウムの詳細は、以下のウェブサイトよりご参照いただけます。

<http://gwcenter.icrr.u-tokyo.ac.jp/archives/892>

(問い合わせ先)

東京大学宇宙線研究所広報室

担当 伊藤 英男

TEL : 04-7136-5148

E-mail: wisdom@icrr.u-tokyo.ac.jp

【会場地図】

<http://www.kashiwa.u-tokyo.ac.jp/tpp40.html>



柏図書館

【添付資料】

<重力波望遠鏡について>

重力波は、その存在が予言されてから約100年が経過した現在でもなお、世界中の科学者が探し求めているにもかかわらず、未だ検出に成功していない「時空のさざ波」です。重力波は非常に重い物体が激しく動き回るときに発生して真空中を伝搬します。重力波の検出に成功すれば、アインシュタインの一般相対性理論の検証はもちろんのこと、新たな天文学が創成されると期待されています。これらの観測を通して、ブラックホールが生まれる瞬間の様子が観測でき、将来的には、宇宙誕生のときの情報などを手にすることができるようになると考えられています。そのために、東京大学宇宙線研究所をホスト研究機関として、国立天文台や高エネルギー加速器研究機構と協力し、日本や世界の研究者とともに重力波の初検出に向けて総力を挙げて建設しようとしているのが、大型低温重力波望遠鏡です。大型低温重力波望遠鏡は、重力波が存在しているのであれば、確実に重力波を観測できると期待されています。この装置は、科学技術立国である日本が、新たなる学問の扉を開く可能性を秘めているといえます。

<関連ウェブサイト>

●東京大学宇宙線研究所：<http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/>

●東京大学宇宙線研究所重力波推進室：<http://gwcenter.icrr.u-tokyo.ac.jp/>